

はにい

ステキな時間

平成29年12月20日

学級担任の自分だけが知っている、その子の出来事を、その子への思いを、その子にだけ伝える。子どもとしっかり正対して、言葉にして、声に乗せて伝える。そんなステキな時間が学期最後の日、「あゆみ」を手渡す一瞬にある。



「あゆみ」を作成する時、子どもたち一人ひとりの成長や課題を、限られた文字数で文章にするのに誰もが苦心する。

文章では伝えきれない「あなた自身のこと」を伝えたい。ある先生は、子どもと横並びに座って、またある先生は、頭を付けるように小さな声で。

自分の思いを言葉で表現することが苦手なAさん。時には友達とトラブルになることもあった。自分から担任の先生に話しかけることもあまり多くはなかった。そんなAさんに担任が小さな声で語りかける。



「いつも遊びに行くとき、みんなに『鬼ごっこやる人!』って声をかけてくれたね。Aさんはお友だちとかかわることを大切にしてきたね。」Aさんの表情がちょっと柔らかくなる。「BさんもCさんもAさんが声をかけてくれるから遊びが楽しくなったって言っていたよ。」



「ちょっと前は、どうやってお友達と仲よくしたらいいのか、分からなくて困っていた時もあったよね。でも今はどうだろう。自分の思いをきちんと伝えられるようになってきているね。とっても成長したね。」

Aさんの表情がさらに柔らかくなり顔が赤らむのがわかる。

担任は続ける。「誰でも困ったり、イライラしたりすることはあるんだよ。そんなときは、私や友だちにどんどん思いを伝えてね。」

「今学期、Aさんが一歩ずつ成長していく姿をみていて本当にうれしかったです。また、来学期も一緒に成長していこうね。」と締めくくった。



いつもなら最後まで話を聞くことが難しいAさんだが、話が終わり担任と握手すると、振り返り次の人を大声で呼んだ。

その声は明るく弾み、恥ずかしさを隠しきれない満面の笑顔だった。